

日本建築学会北海道支部 2018年度 通常総会

日時 2018年5月18日(金)
会場 北海道建設会館

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2018 年度総会議案

I 2017 年度事業報告

第 90 回支部研究発表会を 2017 年 6 月、室蘭工業大学（室蘭市）において開催した。特別企画として PD「北のすまいのこれからについて」を開催し、北海道の住宅技術の進化に貢献してきた鎌田紀彦君（室蘭工業大学名誉教授）と鈴木大隆君（北海道立総合研究機構建築研究本部長兼北方建築総合研究所長）をパネリストに迎え、支部長のコーディネートで、今後の技術の方向について議論した。発表題数 104 題であった。第 37 回北海道建築作品発表会を、2017 年 12 月、北海道立近代美術館講堂で開催した。参加者総数は約 400 人であった。研究活動は、特定課題研究委員会として「道内戦前馬産地の建築調査研究委員会」（主査：西澤岳君）と「寒冷な人口減少地域における Fuel Poverty の実態に関する研究委員会」（主査：森 太郎君）が実施された。

各種表彰を実施し、第 42 回北海道建築賞を、「六花亭札幌本店」河合 有人君（株式会社竹中工務店北海道支店）、同審査員特別賞を、「Shimokawa Blanc」小倉 寛征君（株式会社エスエーデザインオフィス一級建築士事務所）が受賞した。10 年目を迎えた北海道支部技術賞は、「最小断面道産製材による H P シェル建物の設計施工技術の開発と実現」で、山脇克彦君（株式会社山脇克彦建築構造設計）、紺野 将君 紺野 巧君（紺野建設株式会社）、佐々木陽平君（ササキホーム）が受賞した。

文化週間の事業として、「くしろ防災屋台村」、ならびに見学会「鉄のまち室蘭の原点を巡る」を開催した。日本建築学会「女性会員の会」支部活動は、「建築女子 café」の名称のもと「女子現場監督が居るといふこと」と題して、座談会を開催した。

1. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2017 年 5 月 19 日
会場 北海道建設会館
出席正会員 44 名（委任状 12 通）

当支部地域在住正会員 843 名の 30 分の 1、28 名以上の出席により成立

2016 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2017 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

◆ 支部役員会

5 回開催（通信支部役員会含）

◆ 常任幹事会

5 回開催

◆ 選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2. 1 学術委員会（主査：岡本 浩一君，委員数：14名，委員会開催数：4回）

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および特定課題研究委員会に伝達するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特定課題研究の推薦、建築文化週間事業企画および道内工業高校巡回講演会講師派遣について議論し決定した。また、北海道支部技術賞の募集および技術賞選考委員会の設置に基づいて表彰技術候補の選考を行なった。2017 年度の支部研究発表会において「技術パネル展示」を開催した。各活動の詳細は以下の通り。

(1) 研究補助金

- ・ 特定課題研究委員会
「戦前馬産地の建築研究委員会」主査：西澤岳夫 2016-17（継続）
- ・ 本部からの支部助成金による研究委員会
「寒中コンクリート新技術の動向調査」主査予定：濱 幸雄 2017-18（新規）
- ・ 2018 年度特定課題研究
「申し込みなし」

(2) 北海道支部技術賞選考部会

2017 年度支部技術賞は、下記 3 件の応募（応募順・技術名のみ記載）があった。

- ① 真宗大谷派函館別院の保全活用、建築史における特徴解明、構造特性分析に関わる総合的技術プロセス
 - ② 最小断面道産製材による HP シェル建物の設計施工技術の開発と実現
 - ③ 汎用 HP エアコンを熱源とした寒冷地型高断熱高气密住宅用の空調システムの開発
- 上記の応募について、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の 3 つの観点から表彰候補技術として選定した（選定理由は支部技術賞の項目を参照）。

表彰技術名—最小断面道産製材による HP シェル建物の設計施工技術の開発と実現

(3) 建築文化週間事業

2017 年度 事業として以下の 2 つの催事を実施した。

- ・ 見学会「鉄のまち室蘭の原点を巡る」：歴史意匠専門委員会
2017 年 9 月 30 日に実施、参加人数 40 名。室蘭観光協会（登録有形文化財）、日本製鋼所内歴史的建造物群、新日鐵住金所有知利別会館（迎賓館）などを見学。
- ・ 「くしろ防災屋台村～地震時の我が家のバーチャル体験」：都市防災専門委員会
2017 年 10 月 28 日に釧路市こども遊学館にて実施、参加人数 359 名。

2018 年度 建築文化週間企画

- 「建築散歩～帯広の名建築を巡る」歴史意匠専門委員会
- 「くしろ防災屋台村」都市防災専門委員会

(4) 支部研究発表会 技術パネル展

2017 年度の支部研究発表会（会場：室蘭工業大学）において技術パネル展を開催した。10 団体から、構造、材料施工、環境工学、北方型住宅、歴史意匠などに関わる技術パネルの出展があった。昼休みと懇親会にてパネル発表の時間枠を設け、盛会に終了した。

2018 年度から、支部技術賞を受賞された個人/団体に、翌年度の支部研において技術パネル展への出展も研究発表同等と扱うこととした。

(5) 支部公式ウェブサイトのシステム・コンテンツ更新

支部ホームページ管理委員会と連携し、各専門委員会を構成する委員の名簿ならびに活動計画を掲載することとした。掲載および更新の時期は、総会終了後とする。

(6) 道内工業高校 巡回講演会への講師派遣

- ・ 旭川工業高等学校建築科に、歴史意匠専門委員会 武田明純委員（室蘭工業大学）を派遣し、講演「古代ギリシャ建築について」（2017 年 2 月 1 日）を実施した。参加者 80 名
 - ・ 北見工業高等学校建設科に、都市防災専門委員会 岡田成幸委員（北海道大学）を派遣し、講演「工業は理系か文系か」（2017 年 2 月 9 日）を実施した。参加者 34 名
- <今後の予定：担当専門委員会>
- ・ 2018 年度：構造専門委員会（派遣先：帯広）、環境工学専門委員会（派遣先：釧路）
 - ・ 2019 年度：都市計画専門委員会、北方系住宅専門委員会
 - ・ 2020 年度：材料施工専門委員会、建築計画専門委員会
 - ・ 2021 年度：歴史意匠専門委員会、都市防災専門委員会

2. 2 専門委員会の活動

◆ 材料施工専門委員会（主査：杉山 雅君、委員数：25 名、委員会開催数：3 回）

2017 年度北海道支部材料施工専門委員会は、構成委員数 25 名であり、委員会を 3 回（うち 1 回はメール会議）、研究会を 1 回、現場見学会を 1 回開催した。

研究会のテーマはコンクリートであり、下記 2 題の講演に対して議論等を行った。
「自己修復コンクリートについて」河田義郎氏(會澤高圧コンクリート株式会社)
「住宅基礎コンクリートの耐久性向上について」杉山雅先生(北海学園大学)
現場見学会では、「札幌創世 1.1.1 区北 1 西 1 地区第 1 種市街地再開発事業施設建築物新築工事及び公共施設整備工事」の見学を行った。

◆ **構造専門委員会** (主査：飯場 正紀君, 委員数：22 名, 委員会開催数：2 回)

委員会の主な活動は次の通りである。

- 1) 構成委員数は 22 名
- 2) 委員会を 2 回開催し、幹事会を 1 回開催した。
- 3) 講演会を 2 回開催した。加島聰氏 (一般財団法人橋梁調査会)「長大橋の話～瀬戸大橋・明石海峡大橋など誇るべき日本の技術～」と加登美喜子氏(日建設計)「いろいろな素材で構造設計を楽しむ」である。
- 4) 見学会は、2 回開催した。「創世 1.1.1 区北 1 西 1 地区市街地再開発事業の現場見学会」と「新日鐵住金(株)室蘭製鐵所と(株)日本製鋼所室蘭製作所の見学会」である。
- 5) 西村聡准教授(北大・環境フィールド工学部門)を講師に迎え、「2016 年北海道の洪水被害と復旧」に関する勉強会を開催した。

◆ **環境工学専門委員会** (主査：岸本 嘉彦君, 委員数：15 名, 委員会開催数：2 回)

2017 年度は以下を実施した。

- 1) 第 1 回委員会 (2017/11/2, 札幌市立大学サテライトキャンパス, 参加者 9 名)にて, 若手研究者の研究発表の機会を設けた。「札幌市内の分譲マンションストックにおける暖房用エネルギー消費量削減に関する研究」と題して平川秀樹氏(ダウ化工)に発表頂き, 最新の研究動向を把握した。
- 2) 住宅見学会「ときわの家」を北方系住宅委員会, 建築計画委員会と共催した (2018/11/18)。
- 3) 空気調和・衛生工学会北海道支部セミナー“面的エネルギーの効率的利用と BCP への活用”を支援した。(2018/2/16, 北海道大学工学部 A101 室, 主催：空気調和・衛生工学会北海道支部, 定員 40 名)
- 4) 「第 12 回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs' 17」を開催した (2018/3/9, 札幌市立大学サテライトキャンパス, 発表題数 30 件, 参加者 70 名程度)。また特別講演会を企画し, 丸田絢子氏(丸田絢子建築設計事務所)に講演頂いた。

◆ **建築計画専門委員会** (主査：真境名達哉君, 委員数：11 名, 委員会開催数：2 回)

本年度もこれまでの活動実績を踏まえつつ、公開研究会を最終成果とする勉強会・見学会を催した。ここ近年は最終成果公開研究会として開くことを行事としている。今年度のテーマである「オリンピック・パラリンピックに関する計画課題の把握」はテーマを精査し、「障がい者スポーツからみたこれからの建築・都市」として公開研究の開催とした。

◆ **都市計画専門委員会** (主査：岡本 浩一君, 委員数：12 名, 委員会開催数：8 回)

活動の内容：2016 年度から継続している連続企画「わたしの職能」を引き続き開催した。面としての都市計画思考を踏まえつつも、点である建築や地域活動等を介して都市のあり方や関係性を見つめ、各委員の活躍するフィールドを介して多様な視点から考えてみるのが、この企画の目的である。当専門委員会委員の全員が順に講師となり、業務や研究から得られた知見や問題意識あるいは実践例を題材に、若手から専門家まで広く情報や意見の交換を行ってきた。2017 年度に開催した 7 回に延べ 105 名が参加した。参加者の所属内訳は、学生 18 名、行政 26 名、民間 27 名、委員 34 名 (いずれも延人数) である。2016 年度第 1 回からの累計は 160 名の参加となった。

◆ **歴史意匠専門委員会** (主査：西澤 岳夫君, 委員数：16 名, 委員会開催数：4 回, 通信審議 1 回)

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情

報交換を行い、必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を整え活動した。具体的には、まず建築文化週間事業として見学会「鉄のまち室蘭の原点を巡る」(10/14、参加者 40 名)を開催した。その他、三笠市からの委託研究や特定課題研究の一環として独立行政法人家畜改良センター十勝牧場内の建築調査を行った。

◆ **北方系住宅専門委員会** (主査：立松 宏一君，委員数：11 名，委員会開催数：1 回)

本委員会は以下の活動を実施した。

- 1) 北海道支部研究発表会の特別企画：パネルディスカッション「北のすまいのこれからについて」を、建築計画専門委員会、環境工学専門委員会と協力して企画、実施した。
- 2) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会(2007 年から継続的に実施、今年度で 10 回目)を札幌市南区「ときわの家(鈴木理氏設計)」にて開催した。
- 3) 本年度は新委員の参加もあったことから、これまでの北方系住宅専門委員会の経緯を確認するとともに、道の住宅施策に関する話題提供を行い、今後の活動について議論を実施した。

◆ **都市防災専門委員会** (主査：麻里 哲広君，委員数：16 名，委員会開催数：2 回，通信委員会開催数：6 回)

都市防災専門委員会では、2017 年 10 月 28 日(土)に釧路市で開催された第 8 回くしろ安心住まいフェア(主催：北海道釧路総合振興局)において建築文化週間事業「くしろ防災屋台村」を出展し、一般住民の防災意識向上や地域の防災力向上に対する支援活動を行った。また、本部災害委員会からの災害情報に関して、委員会内部に周知し情報の共有を図った。

2. 3 特定課題研究委員会の実施

(2016 年度より)

◆ **道内戦前馬産地の建築調査研究委員会** (主査：西澤 岳夫君，委員数：16 名，委員会開催数：3 回)

本研究は、明治 43 年創立の十勝種馬牧場(現 家畜改良センター十勝牧場)を主軸に日高・十勝地方に遺存する当該建築を調査し、今後の調査・分析の基礎資料を構築することを目的とする。平成 29 年度は、十勝牧場の防疫エリア内に現存する歴史的建造物をリスト化(内訳：明治期 2 棟、大正期 5 棟、昭和初期 10 棟)するとともに、同エリア内の厩舎(明治 43 年竣工)の実測調査を行った。なお、2 ヶ年にわたる研究成果は 2018 年に開催される日本建築学会北海道支部研究発表会で報告する予定。

2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2017 年度より)

◆ **寒中コンクリート新技術調査研究委員会** (主査：濱 幸雄君，委員数：15 名，委員会開催数：4 回)

2017 年度は、幹事会を 5 月に 1 回、全体委員会を 6，9，12 月の 3 回、計 4 回開催した。幹事会では、活動計画のたたき台を検討・作成した。委員会では、はじめに 2 年間の活動計画を議論した。その後、活動計画にもとづき、寒中コンクリート工場の現状把握と課題抽出のため、アンケート調査と事例等の調査を行っている。

アンケート調査は、レディミクストコンクリート工場とゼネコン現場、管理部門を対象とし、実施した。道内の他、寒中コンクリート工事が適用される東北 6 県、関東(茨城、栃木、群馬、長野、山梨)、北陸 4 県、近畿(滋賀、奈良県、京都府)の地域を対象として実施した。アンケートの内容は、寒中施工計画、調合計画策定実態の把握、管理に着目した実態把握とした。

その他、現行指針の課題抽出のため、養生計画策定部分について見直しを開始した。

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会（代表者）	委託者
2017.9.14	平成29年度三笠市炭鉱遺産調査及び図面調査業務委託研究	歴史意匠専門委員会 (主査 西澤 岳夫)	三笠市

4. 支部研究発表会の実施（主査：岡崎太一郎君，実行委員会委員数：16名，委員会開催数6回）

4. 1 開催要領

日本建築学会北海道支部 第90回研究発表会

日時：2017年6月24日（土）

場所：室蘭工業大学（室蘭市）

参加者数：約150名

4. 2 実行委員会委員

主査：岡崎太一郎（北海道大学）

幹事：真境名達哉（室蘭工業大学）

委員：

構造専門委員会 / 永井宏（室蘭工業大学），串山繁（北海学園大学）

材料施工専門委員会 / 崔亨吉（室蘭工業大学），福山智子（北海道大学）

環境工学専門委員会 / 岸本嘉彦（室蘭工業大学），阿部佑平（北方建築総合研究所）

建築計画専門委員会 / 真境名達哉（室蘭工業大学），野村理恵（北海道大学）

都市計画専門委員会 / 片山めぐみ（札幌市立大学），久保勝裕（北海道科学大学）

歴史意匠専門委員会 / 武田明純（室蘭工業大学），西澤岳夫（釧路工業高等専門学校）

都市防災専門委員会 / 麻里哲広（北海道大学），石井旭（北方建築総合研究所）

北方系住宅専門委員会 / 真境名達哉（室蘭工業大学），谷口尚弘（北海道科学大学）

4. 3 実行委員会開催スケジュール

2016年12月末：建築雑誌会告入稿

2017年1月：建築雑誌会告

2017年2月：第1～3回実行委員会メール審議，論文投稿用HP作成

2017年3月13日：論文募集開始

2017年4月13日：論文投稿締切

2017年4月21日：第4回実行委員会（プログラム編成）

2017年5月：プログラム校正

2017年6月中旬：CD発送

2017年6月中旬：第4、5回実行委員会メール審議

2017年6月24日：支部研究発表会

2017年6月下旬：第6回実行委員会メール審議

4. 4 研究発表会

論文題数：110編（A原稿：87編，B原稿：17編，C原稿：4編，D原稿：2編）

優秀講演奨励賞

構造：関あきり（北海道大学），大内京太郎（北海道大学）

環境：工藤和樹（北海道大学）

計画：渡邊萌木（北海道大学），木村早希（室蘭工業大学）

防災：角田叡亮（北海道大学）

4. 5 特別企画

パネルディスカッション 「北のすまいのこれからについて」

コーディネーター： 福島 明（北海道科学大学教授）

パネリスト： 鎌田紀彦（室蘭工業大学名誉教授）

鈴木大隆（北海道立総合研究機構建築研究本部長兼北方建築総合研究所長）

主旨説明： 真境名達哉（室蘭工業大学）

司会： 岸本嘉彦（室蘭工業大学）

記録： 立松宏一（北海道立総合研究機構建築研究本部）

会場： 講義室 A304

参加者数： 約 100 名

4. 6 懇親会

会場： 室蘭工業大学 大学会館多目的ホール

会費： 一般=4,000 円， 学生=2,000 円

参加者数： 98 名（一般： 50 名， 学生： 48 名）

5. 表彰

5. 1 北海道建築賞

(1) 北海道建築賞委員会（主査： 山田 深君 委員 7 名 委員会開催数 3 回現地審査 3 回）

本委員会は 1975 年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建てられた建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞・奨励賞に相応しい作品を選考しており、2017 年度で 42 回目となった。選考においては、作品の有する「先進性」「規範性」「洗練度」の 3 つの視点を基本的な評価軸としている。

今年度は、4 月 17 日（月）の応募開始から 10 月 27 日（金）の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第 42 回北海道建築賞を実施した。

4 月 18 日（火）： 第 1 回委員会 審査方法・スケジュール等の確認、応募推薦作品の選定。

5 月 22 日（月）： 第 2 回委員会 応募 18 作品が審査対象作品となることを確認。書類審査によって現地審査対象作品として 7 作品を選定。

7 月 8 日（土）： 第 1 回現地審査 「掘立柱の家」（岩見沢市）、「平取の家」（平取町）、「アシリ・和來」（岩見沢町）

7 月 9 日（日）： 第 2 回現地審査 「16 の部屋」（小樽市）、「弟の家」（札幌市）、「六花亭札幌本店」（札幌市）

7 月 29 日（土）： 第 3 回現地審査 「Shimokawa Blanc」（下川町）

8 月 21 日（月）： 第 3 回委員会 現地審査を踏まえて最終選考を行い、以下の結果となった。

・北海道建築賞 「六花亭札幌本店」（河合有人君/株式会社竹中工務店北海道支店設計部）

・北海道建築賞審査員特別賞 「Shimokawa Blanc」（小倉寛征君/（株）エスエーデザインオフィス一級建築士事務所）

10 月 27 日（金）： 表彰式・受賞記念講演会および記念パネルディスカッション。北海道大学遠友学舎にて開催。建築文化週間の行事でもあり、一般市民も含め、学生、大学関係者、建築業界関係者など約 50 人が参加した。

審査員：

主 査： 山田 深君

委 員： 赤坂 真一郎君、小篠 隆生君、海藤 裕司君、佐藤 孝君、柴田 尚君

福島 明君

(2) 受賞者

◆北海道建築賞

河合 有人君（株）竹中工務店北海道支店）

作品名—「六花亭札幌本店」の設計

◆北海道建築賞審査員特別賞

小倉 寛征君 (株)エスエーデザインオフィス
一級建築士事務所
作品名—「Shimokawa Blanc」の設計

(3) 審査経緯

本年度の北海道建築賞委員会は、1名の委員を交代した体制で行われた。第1回の委員会は応募開始間もない4月18日に開催し、ここでは表彰規程や審査日程を確認した上で、応募作品に対する全体的な審査方法について審議した。続いて、「北海道建築作品発表会作品集2016」等の情報をもとに、今年度の審査対象になり得るような注目すべき作品について議論した。ここで挙げた作品の中から、委員会からの応募推薦対象作品として3作品を選定し、各設計者に応募についての検討を依頼することとした。

応募締切を経て開催された第2回委員会(5月22日開催)では、作品審査に関わる学会倫理規定と具体的な審査方法を確認した上で、応募推薦対象3作品を含む以下の計18作品を、今年度の審査対象とした。

応募作品および設計者(応募順)

- ①問寒別生涯学習センター(川上雅彦君、金尾和幸君/北電総合設計株式会社)
- ②掘立柱の家(米花智紀君、米花真弓君/米花建築製作所)
- ③ワッカヌプリ(鈴木謙介君、山口理都子君/有限会社鈴木謙介建築設計事務所)
- ④カムイの湯 ラビスタ阿寒川(堀内信男君、山島勝君、東口剛君、小野塚眞君/戸田建設株式会社)
- ⑤集まる家(河合宏尚君/カワイイケンチュク)
- ⑥三浦電機新社屋(佐々木達郎君/株式会社佐々木達郎建築設計事務所)
- ⑦外と内のすき間-小さな葬儀場-(笠井啓介君/笠井啓介建築研究所)
- ⑧大っきな自然・小ぢゃな自然(高部修君/高部建築事務所)
- ⑨平取の家(佐野天彦君/サノアトリエ)
- ⑩連なる三角の家(高木由美子君/Takagi atelier)
- ⑪16の部屋(久野浩志君、長谷川大輔君/久野浩志建築設計事務所、長谷川大輔構造計画)
- ⑫弟の家(久野浩志君、長谷川大輔君/久野浩志建築設計事務所、長谷川大輔構造計画)
- ⑬六花亭札幌本店(西田達生君、河合有人君/株式会社竹中工務店北海道支店設計部)
- ⑭北海道庁本庁舎耐震改修(本井和彦君、有竹剛君、宮本一英君/株式会社竹中工務店北海道支店設計部、株式会社竹中工務店東京本店設計部)
- ⑮アシリ・和來(寛雄平君、甘粕陽介君、岡川哲士君/株式会社NTTファシリティーズ)
- ⑯神社山の隠れ鳥居の家(日野桂子君/ヒノデザインアソシエイツ)
- ⑰北海道カントリークラブ クラブハウス(鈴木正史君、小坂仁郎君、小熊宏君/株式会社大林組札幌支店)
- ⑱Shimokawa Blanc(小倉寛征君/株式会社エスエーデザインオフィス一級建築士事務所)

これらの応募作品に対し、今年度の北海道建築賞においても継続して「先進性」「規範性」「洗練度」の3項目を基本的な評価軸とすることを確認した上で、第一次審査として応募書類による現地審査対象の選考を行った。各応募書類を詳しく通覧し、各委員が個別評価を述べた後に、各作品について活発な議論が為された。その結果、現地審査対象作品として、②「掘立柱の家」、⑨「平取の家」、⑪「16の部屋」、⑫「弟の家」、⑬「六花亭札幌本店」、⑮「アシリ・和來」、⑱「Shimokawa Blanc」の7作品を選定した。

現地審査は、7名の委員全員出席のもと、7月8日に②⑨⑮、7月9日に⑪⑫⑬、7月29日に⑱の日程で行った。現地においては、設計者本人からの説明に加えて、質疑を通じてそれぞれの建築の詳細を把握することができた。さらに、周辺環境との関係性から各部ディテールに至るまでを見ることで、作者の思考の深さや密度、あるいは実体としての空間の質感や完成度を確認することができた。

第3回の委員会（8月21日開催）では、現地審査を行った7作品を対象として、最終選考を行った。選考方法を再度確認した上で、まず各委員が7作品それぞれについての評価を述べるとともに、次の段階の議論へと進めたい作品を挙げた。この時点で高い評価を得られなかった⑮「アシリ・和來」については、賞の対象から外すこととした。続いて残りの6作品については、個別に多くの観点から検討がなされ、賞の決定に至るまでの議論は長時間に及んだ。最終的に北海道建築賞に⑬「六花亭札幌本店」、北海道建築賞審査員特別賞に⑯「Shimokawa Blanc」とすることを、委員全員の同意のもとで決定した。審査員特別賞は、ある特定の観点から特に高く評価されるものに対して賞を与えるものであるが、今回は2007年度以来の受賞となった。

「六花亭札幌本店」は、全体計画から細部に至るまで、入念な検討と的確な判断を積み重ねたことが伺える質の高い商業複合建築である。音楽ホールを核とした商業建築ではあるが、都市においていかに公共的空間を創出するかという意識が、南側外部の庭園のみならず内部においても感じ取ることができる。このような都市型商業建築において、合理的な機能性と表層的な操作を超えた建築的提案をして行くことは一般的に困難なことであるが、クライアントからの水準の高いあらゆる要求にひとつひとつ誠実に応えつつ、都市型商業ビルのひとつのあり方を提案し得ている力量は見事である。以上のことから、本賞に値する総合的に優れた成果であると認め設計における統括責任者を北海道建築賞とするものである。

「Shimokawa Blanc」は、地域の工務店と札幌の建築家とが協働することで、下川町というひとつの小さな町の豊富な森林資源を生かしつつ、質の高い循環型住宅を創出して行こうとするプロジェクトの第一号作品である。複数の工務店と建築家に関わることや施主側の選択性など、このプロジェクトには共通するルールのみならず自由をも担保する興味深い仕組みが見られるが、作者はこの仕組みづくりから深く関わってきた。町外れの防風林に静かに向かい合うように建つ本作品の全体は、ある意味でオーソドックスな手法によって構成されているが、全面的に地元の木材を使用しながら、温熱環境的にも高い性能を確保するなど、作者のこれまでの蓄積をさりげなく敷衍することで、ある水準を超える快適な住宅が確かに創り出されている。本作品は、地域に寄り添いながら何が可能かを問うプロジェクトの活動とのつながりの観点において特に高い意義があるものと認め、北海道建築賞審査員特別賞とするものである。

現地審査を経て、残念ながら選外となった5作品についても以下の通り総評を簡潔に記す。

「掘立柱の家」は、この地に入植した先代が原生林を開拓したという記憶から、太い樹木によって住宅全体が支えられているというイメージを目指した意欲的な作品である。しかし、その巨大な丸太の第1次構造と、2階主室廻りの縦長のリジッドな空間、そして2階主室の廻りにまわりつくような最上階の曖昧な空間の、各々の関係性や意図が論理的に整理されていないように思われる。このような強い要素としての丸太を使う以上、単なるイメージを超えて構造的な論理を空間構築の論理として翻訳していくことも必要であろう。

「平取の家」は、アイヌのチセをイメージの範としながら、北海道におけるモデル的住宅を提案する試みである。木造躯体を調湿に参加させるなど、環境工学的な工夫もしながら、原型に遡って思考しようとする姿勢には好感が持てる。一方で、全体的に抑えられたスケールも要因のひとつであろうが、空間の造形に物足りなさを感じる^ることと、土中に入る基礎廻りの処理などに疑問が残った。

「16の部屋」は、四畳半の空間単位を縦列にかつ4層に積層させた店舗付き住宅である。同一単位の反復という単純形式でありながら、開口部の変化や吹抜あるいは外部を挟み込むことによって、様々な空間が交互に立ち現れることになる。創作における一種のゲームに、解釈する側も面白みを体験することができるであろうし、小さな空間単位ならではの現実的な心地良さもここにはあるように思われる。

「弟の家」は、大きなワンボックスの空間に、3枚の大きくU字型にくり抜かれた壁面を基本的に挿入しただけのシンプルな住宅である。大らかに曲線によって分節されただけの空間は、上部と下部とで緩やかなグラデーションをつくりつつ、大小の開口部を通して四方の

高低差の異なる外部からの様々な光と自然を魅力的に感じ取ることができ、新たなワンルームのあり方をポエティックに提案している。

「16の部屋」と「弟の家」は、いずれも高い評価がされた一方で、フォトジェニックな表現に偏りがちなことなどいくつかの指摘もなされた。優れた佳品であることは認めた上で、最高賞に位置付けるには難しいという判断に至った。作者は奨励賞受賞経験者であるだけに、その受賞作品を超える今後のさらなる展開が期待される。

「アシリ・和來」は、重度身体障害者を対象とした大規模な福祉居住施設のエントランス的な役割として計画された、ギャラリー併設のレストランである。障害者の身体表現の場であるとともに、地域と共生する場であることが想定されている。湾曲した屋根架構と開口部のフレームが特に印象的であるが、敷地全体計画における位置付け方や、各部デザインの関連性などが、全体として検討の余地があるように思われた。

(文責：山田 深)

(4) 審査講評

◆ 北海道建築賞 「六花亭札幌本店」

都市空間や都市生活の質の向上に対して、既存の「商業複合施設」という枠を超えることで答えを出した作品である。

北海道を代表する菓子メーカーの札幌本店として、菓子店店舗に加えて、楽器店、和・洋のレストランなどの商業系機能が入ると同時に、音楽ホール、ギャラリーなど公共性を持つ機能構成を取っている。異なるニーズを持つ商業テナントの集合によって発生してしまう不連続を払拭し、それぞれの店舗が持つ異なるニーズは尊重するが、その中でホール、ホワイエ、庭園などのパブリックな機能と上階からの都市景観への眺望を持つ空間を挿入することによって、建築全体を単なる商業施設から都市の中におけるパブリックスペースを持った先進的な都市建築に見事に変換させている。

また、敷地の使い方とそれに連動した建築フォルムのデザインにも大きな特徴がある。設計者は、施主の要望もさることながら、一般には裏通りの陰気で無機質な中通りを形成している札幌都心部の都市空間に一矢を報いるが如く、北海道自生種の樹木や花卉、草本による庭園を敷地の約半分近くを使って面させ、快適な空間を中通り側に出現させたのである。さらに、都心の一等地に建てる建築として必要かつ最大限の床面積を確保する必要上、公開空地などで高さ制限の緩和や容積緩和などを受けることが通例であるのに対し、この大きな庭園を取ってしまったことからできなくなった公開空地による緩和を天空率緩和によって実現し、庭園を実現しつつも前面道路側からのすっきりとしたまっすぐなボリュームを確保し、端正で洗練されたファサードデザインを創り出し、上質な街路沿道景観の形成に貢献している。

この作品のもう一つの特徴は、世界中の至る所の都市に必然的に出現してしまう床が積層されたビルディングのスタイルに対し、同様に10層もの床を重ねる構成でありながら、建築を構成する素材やそれが織りなす空間構成のハーモニーが訪れる者に心地よさを体感させることである。自生種を主体とした庭園だけでなく、エントランス壁には、大判の米松の木目を浮き出させた浮造り、5階のギャラリーには、2008年の洞爺湖サミット時にメディアセンターで使われた北海道産カラマツ間伐材をリユースした仕切り壁、さらに6階ホワイエには、フレスコ画技法を使った壁画などが、周囲の仕上げとの関係を注意深く調整しながら楚々と配されることで、近代資本主義のアイコンのようなビルディングには、切り捨てられて到底存在しなくなってしまった建築と人との親密な親近感を感じさせる仕掛けが巧みに配されたデザインになっているのである。

設計期間は約1年程度だったようだが、その前に約4年をかけて計画を行い、上記のような建築プログラムと実現手法の検討を行なったようである。その間、現実の壁にぶつかりながらも様々な可能性が追求され、このような作品に結びついた。プライベートな商業建築は、

もちろん施主の所有物でもあるが、都市の財産にもたりうる質と内容を獲得しようと努力した設計者の姿勢は、これからの北海道の都市建築の質向上を考える場合、重要で規範的な位置付けであると言える。

ここに北海道建築賞を贈り高く評価したい。

(文責：小篠 隆生)

◆ 北海道建築賞審査員特別賞 「Shimokawa Blanc」

「Shimokawa Blanc」は、道北の町・下川町の市街地の一面に位置するコートハウスである。敷地前面には、過去に廃線した鉄道に沿って残る数少ない鉄道防風林を歴史的記憶の風景として利用し、それを建屋内からの風景となる様に中庭をコの字型に取り囲んで配置している。室内空間構成は、玄関より水廻りなどのユーティリティを背にし、中庭を見せながらストレートに通路からリビングへと繋がっている。リビングから中庭への見せ方は北側へ大きな開口部を設け、北側採光とし、安定した明るさを室内に与えている。リビングから更に和室、寝室と連なり、中庭から閉じながら奥へと繋がっている。中庭に対する開口部の開き方の大小と、各々のその場所における天井高さに高低差を設けることで、視線の広がりやコントロールし、空間に秩序を与えている。この手法はプライベートな空間づくりにおいてオーソドックスな手法ではあるが、その手法をストレートに使いながら正統的な住宅としての空間を作り出している。夏冬の寒暖差が60℃にもなる地域にシーズンを通して安定した光と中庭の刻々と変化する風景を取り入れた、良質な内部空間を作り上げた。また、細部に渡る室内のディテールは、丁寧な作りをしており工務店の技術者の力量を高次元に設計者が引き出した結果が伺える。

特に注目した点は、この建築を作品としてのみ捉えるのではなく、住宅建築を地域社会に供給する仕組みを設計者自ら他者と協同し成立させている点である。「森とイエ」プロジェクトは、下川町、その近郊のみの限られた地域にしか成立しないシステムではなく、地域材を利用した良質な家作りの供給システムとして道内各地、ましてや、仕様・性能やプログラム、デザインコードの変更により、どの地域にも転用可能なものとなっており、そのような意味で「規範性」を持っていると言える。「Shimokawa Blanc」は、そのプロジェクトの第一号の作品である。また、このシステムとも言うべきプロジェクトは、単なるお見合い的な建築家の選定ではなく、オーナー主導、工務店主導、標準モデルを選択できるユーザーサイドに立った選択方法を取り入れ、オーナーの知識・意識向上のための勉強会、交流会を開催するなど、家をつくるストーリーをユーザーに合わせて協同していく取組みも評価に値する。建築家や工務店に対する関係を消費者的オーナーとして経済的にのみ考えるのではなく、各々を地域社会の中で有意義に結びつけ、商業ベースに則っているハウスメーカーと対峙した新たな地域の住宅設計・製作供給のシステムと成り得る可能性を持っている。道内の木造住宅は、道、各研究機関、大学、メーカー、工務店、ユーザー等の研究、協力、努力により、この30年間で技術的、性能的に、ほぼ成熟した域に達した。その域に達している状況から、更なる質の高い住空間、北海道以外には成し得ない次世代の寒冷地住空間づくりへの可能性を期待させる作品である。

この建築の良質な空間と地域における住宅供給のシステムづくりのプロジェクトを両立させた点は、質の高い住宅をその地域につくるという点において意義があり、北海道建築賞審査員特別賞として高く評価したい。

(文責：海藤 裕司)

5. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見君，委員数：6名，委員会開催数：1回）

2017年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は小西委員が欠席のため、久野浩志氏に代理として審査を依頼した。

本年度は「大学」の部では金賞2点、銅賞1点を選定した。「短大・高専・専門学校」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞1点を「工業高校」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞1点を選出した。審査後、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：

主 査：菅原 秀見君

委 員：遠藤謙一良君，小倉 寛征君，久野 浩志君，齊藤 文彦君，中山 眞琴君

(2) 受賞者

◆ 大学の部 (応募作品数：12点)

- ・金賞 富谷 至君：北海道科学大学工学部建築学科
作品名 — 隣接する兆
- ・金賞 白戸 採希君：北海道科学大学工学部建築学科
作品名 — 刻の縫目
- ・銅賞 伊阪 遼君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — 宿存する隙

◆ 短大・高専・専門学校の部 (応募作品数：4点)

- ・金賞 中村 悠佑君：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — 漁業都市の船出～道南江差における市場再生システム～
- ・銀賞 増田悠一郎君：釧路工業高等専門学校建築学科
作品名 — sumika — 学び舎—
- ・銅賞 代表者 四ッ屋卓身君：北海道職業能力開発大学校建築科
作品名 — Diversity.. Eniwa — 多様性をつむぐ—

◆ 工業高校の部 (応募作品数：8点)

- ・金賞 奥村 玲菜君：北海道旭川工業高等学校建築科
作品名 — おやすみ館&アメリカフェ～集う・憩う・めぐる～
- ・銀賞 佐々木灯里君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
谷本 璃空君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
作品名 — 寄跡～古き良き名寄の奇跡～
- ・銅賞 横内 美紀君：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — 道の駅 湯の川

(3) 審査講評

◆大学の部

金賞・富谷 至君

これは建築そのものを呼び戻そうとする作品である。プログラムやコンテクストを解くことでその存在理由を見出そうとする建築ではない。むしろこの建築を解こうとすることで、プログラムやコンテクストが発展していくような作品である。このような建築の力を作者は「予感」と名付けている。これは機能と形態の関係性の新たなフェーズとなり得る概念である。作者の建築の根本を問う姿勢に金賞を授けるものである。

(文責：久野 浩志)

金賞・白戸 採希君

函館山の自然、歴史を見直し、観光地の展望台にとどまらない魅力を提案した作品である。展望台と山頂や砲台跡の戦争遺構などを結ぶ尾根筋に、施設をつなぐ通路と壁を設け、展示施

設やアーティストレジデンス等各種の施設を埋め込んでいる。見えないものや忘れられた価値を探り、360度の眺望という魅力を活かすなど地形と壁の連続性などは、これまでの函館山とは異なる魅力がこの作品の力となっている。各施設のデザイン要素の統一は、作品に力を与える一方で、本作品のテーマである刻の一部になる時系列の変化してゆくことへの提案がみられるとより提案に深みが増したであろう。

本提案は、函館山への提案にとどまらず、観光地への普遍的な提案である。その高い視点と完成度に金賞を授けるものである。

(文責：齋藤 文彦)

銅賞・伊阪 遼君

作者が人間関係において見出した仮定を、都市スケールに展開しようとする挑戦的な作品である。「人は互いの「隙」によって親密で優しくなれる。効率や合理性に支配されつつある都市において、人の「隙」にあたる都市の「隙間」を護れないか？」との「問」から作品が始まる。グリッド都市札幌の一街区の中心に「楔」を打ち込むことで中通りなどの「隙間」を定着させる。「楔」は垂直動線やインフラ、構造体となり周囲の既存建築を支え、街区更新時にはその基点となり、都市の多様性や受容力を担保していく。「楔」の形態や機能、構造などさらに検討を進めることでより良い作品になると感じる。以上を総合的に判断して銅賞にふさわしい作品であると判断した。

(文責：小倉 寛征)

◆ 短大・高専・専門学校の部

金賞・中村 悠佑君

江差の海沿に建つ市場は美しい描写でストーリーが展開された計画となった。街の歴史と各町内会の象徴を建築に転写し、見事な建築に仕上がった。伝承も忘れないが、100年後の未来の時間までもデザインされている。観光も職場環境、物流に至るまで徹底的に考え抜かれている。これも建築の力で、故郷を何とかしたい。という強い意思でもある。建築に携わる、自分も含めて全ての人は社会に対して貢献する姿勢を忘れてはならない。そう考えさせられる作品である。

(文責：中山 眞琴)

銀賞・増田悠一郎君

釧路の学生寮の提案である。既存の学生寮の事情と学生寮の本格的意義である共同生活による人間としての成長のあり方をハニカム形状の構造に着目し検討・計画された。ハニカムの特性を工夫し、主構造であるコンクリートの水平床の上に3層のハニカムユニットが組み込まれた提案は、サイズを含め寮としてユニークで独自性を感じる内容である。平面・垂直方向にもハニカム展開され光が溢れるファサードに新しい創造性を感じるものとなっており、提案と新しい創造力に銀賞を授けるものである。

(文責：遠藤 謙一良)

銀賞・代表者 四ッ屋卓身君

Diversity=多様性を重層的に解釈した作品。交通の利便性から様々な地域から人が集まる多様性。緑、花、川など自然の要素の多様性。計画地である恵庭市の持つ多様性を生かし、滞在型ファームスクールを提案している。計画の背景として、恵庭市の置かれている状況、課題を分析、恵庭市の魅力を分析し、人をつなぎ、人と自然を結びつける提案として結実している。内部空間においても、人のつながりを感じさせる空間を中心に構成されており、全体計画から建築計画まで、一貫したコンセプトでつくられている。造形や建築空間としてももう少し魅力が欲しかった点、表現としてわかりづらかった点など改善すべき内容はあるが、建築を生み出すためのひたむきなプロセスを評価したい。

(文責：菅原 秀見)

◆ 工業高校の部

金賞・奥村 玲菜君

旭山動物園に計画した休憩所、南北アメリカ大陸の動物展示施設、カフェの複合施設の提案である。休憩所や資料室の少なさや、動物を見ながら食事のできるの必要性など、現地で感じたことが提案の源であることが提案の強さにつながっている。2階から見下ろすカフェは、動物園ならではの場所として魅力がある。また、資料室も多くの人の目に触れるよう2階に配置するなどの工夫がみられる。

紙面構成や色合いなども提案にふさわしいものとなっており、高校の部の金賞を授けるものである。

(文責：齋藤 文彦)

銀賞・佐々木灯里君、谷本 璃空君

歴史ある名寄駅の現状の問題点を考え、市民がより多く集まる為のリノベーションの提案である。

計画は名寄駅とその周辺環境を見直すことで駅にレストラン・本屋と様々な機能を加えまた、エスカレーターなどでバリアフリー機能性を高め、子供から老人までが利用できるユニバーサルな視点でバランスよくまとまっている。より具体的な空間の提案・表現がある事でより提案が明確になったかと思う。

再生という視点と計画の完成度に銀賞を授けるものである。

(文責：遠藤 謙一良)

銅賞・横内 美紀君

函館、湯の川に計画した「道の駅」である。函館の建築の歴史を参考に和洋折衷のデザインを試みるとともに、足湯やイトインコーナーなど現代のニーズにあわせた機能を設けるなど、幅広い視点で設計された優しい建築となっている。丁寧に書き込まれ、水彩で仕上げられた手書きの図面やパースからは、作者の作品への情熱を強く感じ取ることができた。以上の点から、銅賞にふさわしい作品であると判断した。

(文責：小倉 寛征)

5. 3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

2017年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

- 清水 美帆君・久保 夏樹君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
- 岩木 智穂君・加藤 弦生君：北海学園大学工学部建築学科
- 澤田 彩佳君・荒井 優治君：北海道科学大学空間創造学部建築学科
- 佐藤 来美君・乙茂内郁美君：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
- 金塚 信君・春木 美野君：東海大学国際文化学部デザイン文化学科
- 舘岡 高嶺君・鎌田 美咲君：星槎道都大学美術学部建築学科
- 芦口紗耶加君・山本 佳苗君：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科空間デザインコース
- 沼田 知輝君・松原 浩介君：釧路工業高等専門学校建築学科
- 千葉 大輔君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
- 四ツ屋卓身君：北海道職業能力開発大学校建築科
- 川端 賢人君：北海道札幌工業高等学校建築科
- 池田 光汰君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
- 白岩 考汰君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
- 村部 浩司君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
- 鈴木 孝徳君：北海道函館工業高等学校建築科
- 角谷 太一君：北海道函館工業高等学校定時制建築科
- 大懸 悠人君：北海道旭川工業高等学校建築科
- 大西 優希君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
- 吉田 海流君：北海道苫小牧工業高等学校建築科

及川このみ君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
馬場 智寛君：北海道帯広工業高等学校建築科
北口 翔君：北海道釧路工業高等学校建築科
佐々木灯里君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
澤田 蓮君：北海道室蘭工業高等学校建築科
本間 楓君：北海道留萌千望高等学校建築科
佐々木凌汰君：北海道北見工業高等学校建設科

5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。2017年度は、該当する法人・賛助会員等はいなかったが、今後も引き続き表彰する予定である。

5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

(1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：岡本 浩一君，委員数：10名 委員会開催数2回）
選考委員：支部長，学術委員会委員長，学術委員会委員の計10名

(2) 受賞者

◆北海道支部技術賞

株式会社山脇克彦建築構造設計

山脇 克彦君

紺野建設株式会社

紺野 将君

紺野 巧君

ササキホーム

佐々木陽平君

表彰技術名一最小断面道産製材によるHPシェル建物の設計施工技術の開発と実現

(2) 審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し、選考部会を計2回開催した。

初回の技術賞選考部会では、応募のあった下記3件の内容について協議した。

応募された技術等の名称：「真宗大谷派函館別院の保全活用、建築史における特徴解明、構造特性分析に関わる総合的技術プロセス」，「最小断面道産製材によるHPシェル建物の設計施工技術の開発と実現」，「汎用HPエアコンを熱源とした寒冷地型高断熱高气密住宅用の空調システムの開発」(受付順)

募集要領の選考基準に定められる，「地域性・独自性」，「有効性・新規性」，「継承性・継続性」の3つの観点に基づき技術内容を把握した。応募書類にある技術内容について，必要に応じ該当する応募者に質問文書を送り，適宜，追加資料の提出を求めることとした。

第2回の技術賞選考部会では，提出のあった回答書および追加資料を併せて，技術内容について再度議論したうえ，投票により「最小断面道産製材によるHPシェル建物の設計施工技術の開発と実現」を技術賞表彰候補とした。

最小断面道産製材を用いたHPシェル建物の設計施工技術の開発・実現に意欲的に取組んでおり，なかでも選考部会ではそのプロセスに評価の視点が集まった。地元の技術者の高度な技能発揮はもちろんのこと，地元の中高生がデザイン段階から参加している。中高生の関わりは，デザイン段階に留まらず各部材の加工や現場施工体験など，多様な場面に広がりを見せている。この

取組みの仕立ては、「地域性・独自性」の点で高く評価された。技術者の高齢化や人材不足が懸念されるなか、デザインから建物が出来上がるまでの一連のプロセスを通して、線材から曲面が成立する HP シェル構造を通じた空間への興味・関心の深化、あるいは技術を通じた地域内での世代間交流などを中高生に経験してもらう取組みは、「継承性・継続性」の点で高く評価された。

後日、支部役員会にて、技術賞選考部会から技術賞表彰候補として報告し、審議の結果、2017年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

(文責：岡本 浩一)

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会 (主査：米田 浩志君, 委員数：3名, 実行委員数：11名, 委員会開催数：5回 (実行委員会4回を含む))

2017年12月1日の発表会に向けて第37回北海道建築作品発表会委員会及び実行委員会が開催された。3名によって構成される北海道建築作品発表会委員会は1回開催され、メールによる会議を複数回行った。その後、実行委員8名が加わった実行委員会は4回開催された。

実行委員会の具体的な作業としては、各スケジュールの計画、応募要項の作成、作品の受付、プログラム編成、作品のデータ集約などである。発表会場は、例年北海道立近代美術館講堂にて開催した。

発表会当日は、第37回建築作品発表会作品集 VOL-37 を発刊した。また、発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2017に実行委員の小西彦仁氏が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」に石塚和彦氏が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

期日：2017年12月1日(金曜日)

会場：北海道立近代美術館講堂

発表作品数：35作品

37回目を迎える北海道建築作品発表会は、2017年12月1日(金曜日)に開催された。会場は、北海道立近代美術館講堂、参加者総数は約400人であった。1981年に第1回目をスタートさせたこの発表会は、回数を重ねるごとに発表の内容や議論の内容が厚みを増してきていると言える。今年の発表会においても質の高い建築作品が多く発表された。この場合は、発表する建築家を中心に建築関係者、建築学生、一般市民を巻き込みながら建築文化の向上に寄与してきた。今回の作品発表会は、発表題数が35題であった。発表会の歴史においては平均的な数とも言えるが、ここ数年間の発表数に比較すると多めの作品総数であった。また、作品の数に比例するように建築の用途が多様な広がりを持っていた。今年の発表会のプログラムも例年通り三部構成で、1部と2部は各作品のスライドを交えた口頭発表、そして3部はフォーラムとして位置付け全体の作品を集約し意見交換を行った。このフォーラムは、作品発表会において特に重要な目的性を有しており、作品の規模や用途を越えた共通点等を見出すことができる貴重な建築批評の場になっている。毎年このフォーラムがあることよって、全体を通じた建築作品の動向が顕在化され、そして発表者とオーディエンスとの間に対話が生まれる。作品発表会は、北海道の建築シーンにおいて極めて意義深いステージであると改めて強調することができる。

7. 特別委員会

7. 1 事業主査連絡会 (事業系5委員会の主査および事業系担当常議員)

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中での可能な連携がとられ、活動に関し役員会への報告を行っている。本年度についても建築文化週間として北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施され印刷物やHPで公表されている。また、建築作品発表会

は作品集の刊行、卒業設計審査委員会からは入選作品の HP 掲載がされるなど公表されている。

7. 2 総務委員会（委員長：白井 和貴君，担当常議員，委員会開催数 1 回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、役員会にて報告した。

7. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎君，幹事：斉藤 雅也君，委員数：2 名，メール等による情報交換を数回実施）

2017 年度は以下を実施した。

- 1) 役員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なった。
- 2) ベント周知，報告等の Facebook ページの更新作業を行った。
- 3) 各委員会ページの名簿，活動内容について見直しを行った。

7. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：谷口 円君，委員数：10 名，委員会開催数：2 回）

1回の委員会と建築女子 café を開催した。

また，建築仕上学会女性ネットワークの会による建設産業ふれあい展におけるトークショーに協力した。

以下，開催概要

➤ 建築女子カフェ・座談会「建築現場に女子現場監督がいるということ」

開催日時 2018 年 1 月 31 日（水）16:00～

開催場所 北海道科学大学 3 号館 3306 室

講師（発表者）：谷口円（北海道支部女性会員の会主査、北方建築総合研究所）

司会（コーディネーター）：佐藤 孝（北海道科学大学教授）

パネリスト：中西 雅裕（大成建設株式会社札幌支店）

関口 晴代（大成建設株式会社札幌支店）

谷口悠美子（大成建設株式会社札幌支店）

➤ 建設産業ふれあい展日本建築仕上学会女性ネットワークの会によるトークショー

開催日時 2018 年 1 月 13 日（土）11:00～

開催場所 札幌駅前通地下歩行空間

司会（コーディネーター）：熊野康子（フジタ）

参加者 福島支部長，谷口円，科学大女子学生 2 名

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8. 1 講習会

(1) 本部主催講習会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2018. 1. 24	2017 年度支部共通事業 建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事 ならびに関連指針」改定講習会	北海道建設会館	桑原 進 他 3 名	80 名

(2) 支部委員会主催講習会（セミナー）

該当なし

8. 2 講演会

(1) 本部主催講演会

該当なし

(2) 支部主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2017. 6. 24	支部研究発表会特別企画記念パネルディスカッション「北のすまいとこれからのについて」	室蘭工業大学	鎌田 紀彦 他 2 名	100 名
10. 27	建築文化週間「第 42 回北海道建築賞表彰式・記念講演会」	北海道大学遠友学舎	河合 有人 他 1 名	約 50 名
12. 1	第 37 回北海道建築作品発表会	北海道立近代美術館大講堂	作品数 35 点	約 350 名
2018. 1. 31	建築女子 café 座談会「建築現場に女子現場監督がいるということ」	北海道科学大学 3 号館 3306 室	谷口 円 他 3 名	12 名
2. 1	「古代ギリシャ建築について」	北海道旭川工業高等学校	武田 明純	80 名
2. 9	「工業は理系か文系か」	北海道北見工業高等学校	岡田 成幸	34 名

(3) 支部委員会主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2017. 4. 27	「連続企画『私の職能』」講演会 (都市計画専門委員会)	札幌市立大学サテライトキャンパス	菅原 誠	23 名
5. 23		札幌市役所会議室	勝見 元暢	24 名
6. 27		札幌市役所会議室	酒井 秀治	12 名
7. 20		眺望ギャラリーテラス計画	岡本 浩一	12 名
8. 31		眺望ギャラリーテラス計画	片山めぐみ	14 名
10. 31		眺望ギャラリーテラス計画	辻井 順	14 名
11. 16		眺望ギャラリーテラス計画	笠間 聡	8 名
6. 12	加島聡講演会「長大橋の話」～瀬戸大橋・明石海峡大橋など誇るべき日本の技術～	北海道大学工学部オープンホール	加島 聡	182 名
10. 28	建築文化週間「くしろ防災屋台村」(都市防災専門委員会)	釧路市こども遊学館	委員会委員	360 名
11. 24	「いろいろな素材で楽しむ」講演会(構造専門委員会)	北海道大学工学部 B31 教室	加登美喜子	82 名
2018. 3. 9	第 12 回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs16(環境工学専門委員会)	札幌市立大学サテライトキャンパス	発表題数 30 題	70 名
3. 29	「障がい者スポーツから見たこれからの建築・都市」(建築計画専門委員会)	どうぎんカーリングスタジアム	永瀬 充 他 4 名	23 名

8. 3 見学会

開催日	見学場所	解説者	参加者数	主催
2017. 8. 22	「札幌創世 1. 1. 1 区北 1 西 1 地区市街地再開発事業」見学会	金田亮太郎	33 名	構造専門委員会 都市防災専門委員会
8. 24	「札幌創世 1. 1. 1 区北 1 西 1 地区市街地再開発事業」見学会	川村 亮 谷口悠美子	13 名	材料施工専門委員会
9. 30	「鉄のまち室蘭の原点を巡る」	日本製鋼所 職員他	40 名	歴史意匠専門委員会
11. 18	2017 これからの住まいと暮らしを考える住宅見学会	鈴木 理	15 名	北方系住宅専門委員会 環境工学専門委員会 建築計画専門委員会

8. 4 展示会

開催日	名称	会場	参加者数
2017. 5. 17～19 6. 2～ 4 12. 4～7	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	130 名 105 名 120 名
7. 4～ 12. 11	道内工業高校卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11 校	合計 1, 400 名

9. 本部関連事業・その他

9. 1 2017 年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 支部共通事業設計競技審査委員会（主査：山田 良君，委員数：5 名，委員会開催数：1 回）

委員会活動として設計競技審査会を 2017 年 7 月 3 日、午後 6 時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「地域の素材から立ち現れる建築」であり、11 案の応募があった。5 名の委員全員による議論および審査を経て 2 案を支部入選案として決定した。特筆すべきは、支部入選案のうち 1 案「歓楽列車—移動する建築」原大介君（札幌市立大学デザイン学部 4 年）は全国審査の結果、見事に佳作とタジマ奨励賞のダブル受賞を成し遂げた。今後の北海道支部への応募数増と入選案の躍進にも期待したい。

支部審査員：

主 査： 山田 良君

委 員： 赤坂 真一郎君，久野 浩志君，小西 彦仁君，山之内 裕一君

(2) 審査講評

2017 年度支部共通設計競技「地域の素材から立ち現れる建築」審査評

「歓楽列車～移動する建築～」

原 大介（札幌市立大学）案

北海道の鉄道網は今や廃線の一途をたどっている。この作品は近い将来廃線予定の旭川と稚内を結ぶ宗谷本線が舞台であり、その鉄道のレールが構造体となっていて、汽車の台車をベースに上部に飲食をはじめとする歓楽施設をつくったものである。

北海道の開拓と鉄道は密接に関係していて、鉄道が引かれ駅ができて街が発展し、やがて歓楽街が出来る。その歓楽街はまちのスケールと関係して、過疎化が進むと消滅していき、やがて鉄道も廃線となる。

この作品は「地域の素材」として直接的に廃線のレールを利用し、街の構成要素である歓楽街をあえて蘇らせ、消え行く「モノ」で新たな建築的価値観を生み出し、過疎の街に希望と光を与える秀作となっている。素晴らしい！

（文責：小西 彦仁）

「海、結わく稚木」

三浦 貴久、野口 翔太、千葉 大輝、桂田 啓祐、高月 創一（室蘭工業大学）案

今日の生産・流通システムと経済至上主義の社会においては、「もの」としての素材を単純に美化することはできない。そこに地域の素材があっても、経済原理がその使用を拒むのが現状である。相応の理由がなければ使用することは許されない。この作品では、地域の素材として、まず黒松を挙げ、風土である強風や水の流れ、さらに地域産業である林業、漁業を見出し、それに教育というプログラムを掛け合わせることで、その必然性を見出している点が評価できた。地域の素材をものから風土、歴史、産業にわたり多角的に捉え、それらの要素を一つの作品に統合しようとした設計者の姿勢に共感を覚える。描かれたストーリーのさらなる発展を期待したい。

（文責：久野 浩志）

「二重屋根下の水景」

平間加寿喜、岡本 大、福山 将斗（室蘭工業大学）案

計画地は、北海道の屋根・大雪山の麓に位置する東川町。計画は地域の素材を伏流水と定めている。市街地では地域の伝統を受け継ぐ伏流水が顕在化されていないことを批判、暗渠をオープン化することで伏流水の水辺と水景を住民に取り戻すことを目指した。

冬山の降雪が伏流水となり麓に湧きでる。湧水は水路を下り水田を潤し農耕地帯と水辺が共存する土地の風景をつくる。しかし、水路は農耕地から市街地に移行する地点で暗渠となり風景から消えた。

具体的提案は、フォーリーと呼ぶ二重屋根の構築物5基を水路に配し、商店街や住宅街など地域ごとの活用を期待している。その結果、失われていた地域のアイデンティティ復原を提起できた点を評価した。

（文責：山之内裕一）

9. 2 作品選集支部選考の実施

（1）作品選集支部選考部会活動報告（主査：田川 正毅君：委員数6名：委員会開催数2回及び 現地審査）

2017年度応募数12作品に対して、6月23日の第一次選考委員会において応募書類による審査を行なった。討議と複数回の投票を経て、8作品が現地審査対象作品に該当すると判断した。そして、各委員分担のうえ8月1日から7日の間に4日間に分けて現地審査を行った。8月7日に第二次選考委員会を開催し、最終的に5作品を選考し本部へ推薦した。

支部審査員：

主査：田川 正毅君

委員：小篠 隆生君、菊田 弘輝君、西村康志郎君、前田 芳伸君、山田 良君

（2）作品選集支部選考の結果

北海道支部応募作品数12点

支部選考通過（本部へ推薦）作品数5点

本部採用・作品選集掲載作品数5点

- ・新得町都市農村交流施設 カリンパニ（作品選集掲載作品）
川人洋志君：北海道科学大学
斉藤雅也君：札幌市立大学
- ・日本基督教団 真駒内教会（作品選集掲載作品）
加藤 誠君：アトリエブク
菊池規雄君：アトリエブク
- ・北菓楼札幌本店（作品選集掲載作品）

西田達生君 : 元竹中工務店北海道支店一級建築士事務所
横尾淳一君 : 竹中工務店北海道支店一級建築士事務所
安藤忠雄君 : 安藤忠雄建築研究所

・札幌三井 JP ビルディング・札幌市北 3 条広場 (作品選集掲載作品)

山下博満君 : 日本設計
根本 工君 : 日本設計
狩野明洋君 : 日本設計
田名網雅人君 : KAJIMA DESIGN
丸山茂生君 : KAJIMA DESIGN
堀越英昭君 : KAJIMA DESIGN
松岡拓公雄君 : アーキテクトシップ
鈴木 理君 : 鈴木理アトリエ
廣瀬 健君 : アワードデザイナー一級建築士事務所

・丘のまち交流館 “bi.yell” (作品選集掲載作品)

小澤丈夫君 : 北海道大学大学院
宮城島崇人君 : 宮城島崇人建築設計事務所
菊池規雄君 : ワンダーアーキ建築設計事務所
榊田洋子君 : 桃季舎
山脇克彦君 : 山脇克彦建築構造設計

9. 3 建築文化週間

①テーマ:「鉄のまち室蘭の原点を巡る」

主 催: 日本建築学会北海道支部
日 時: 2017. 9. 30 (土)
場 所: 日本製鋼所工場内歴史的建造物群他
講 師: 日本製鋼所職員、新日鉄住金職員
参加対象: 学会員、地域一般市民、市町村職員、建築技術者、学生
参加者: 40 名

②テーマ: 第 42 回 (2017 年度) 北海道建築賞表彰式・記念講演会

主 催: 日本建築学会北海道支部
日 時: 2017. 10. 27 (金)
講 師: 河合 有人「六花亭札幌本店」の設計 (第 42 回北海道建築賞)
小倉 寛征「Shimokawa Blanc」(第 42 回北海道建築賞審査員特別賞)

場 所: 北海道大学遠友学舎
参加対象: 学会員、一般市民、建築関係者、学生
参加者: 約 50 名

③テーマ:「くしろ防災屋台村」

主 催: 日本建築学会北海道支部
共 催: 北海道釧路総合振興局
日 時: 2017. 10. 28 (土)
場 所: 釧路市子ども遊学館
参加対象: 学会員、地域一般市町村民 (親子)、行政職員、学生
参加者: 360 名

10. 建築関連団体との活動

10. 1 AIJ-JIA 合同委員会 (委員数 (AIJ) : 8 名, 開催数 : 1 回)

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両

団体のイベント紹介と参加要請についてである。2017年度ジョイントセミナーは佐藤孝北海道科学大学教授を講師に6月に開催された。

10.2 北海道建築設計会議（幹事会開催数：12回）

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、金田亮太郎君と久新信一郎君の2名を参加させた。

幹事会においては、各団体の法人化等について情報交換や意見交換を行った。

11. 共催・後援

期 日	名 称	会 場	主 催
2017. 7. 18	「建築家・安藤忠雄講演会 “自由と勇気”	北海道大学工学部 鈴木章ホール	北海道大学大学院工学研究 院安藤忠雄講演会実行 委員会
7. 21	「コミッシングの最前線—新たな視点とト ップランナーから学ぶ—」	北海道大学工学部 A101 室	(公社) 空気調和・衛生工学 会北海道支部
7. 27	平成 29 年度第 1 回都市地域セミナー	教育文化会館 301 会議室	(公社) 日本都市計画学会 北海道支部
応募締切 8. 17	第 42 回北の住まい住宅設計コンペ K I T A S U M A		(一社) 北海道建築士事務 所協会
9. 19	「北海道建築環境フォーラム」	北海道大学工学部 オープンホール	北海道大学建築環境学研 究室・(株)北海道日建設計
9. 21	「コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講 座 大学から実務者へ～技術情報の発信 と情報交換」	ホテルポールスタ ー	(公社) 日本コンクリート 工学会北海道支部
10. 24	「建築鋼構造フィールド・スタディ」(北海 道地区) (支部構造、材料施工専門委員会後援)		(一社) 日本鉄鋼連盟建築 鋼構造研究ネットワーク 幹事会
11. 12	「公益社団法人日本都市計画学会第 52 回学 術研究論文発表会」	北海道大学工学部	(公社) 日本都市計画学会 北海道支部
2018・1. 22 ～23	「リナナイ(株)北海道支店見学会」及び 2017 年度地区講演会	北海道大学工学部 B31 教室	(公社) 空気調和・衛生工学 会
2. 16	「面的エネルギーの効率的利用と B C P へ の活用	北海道大学工学部 A101 室	(公社) 空気調和・衛生工学 会
2. 17	第 28 回旭川建築作品発表会	旭川科学館「サイ パル」	旭川まちなみデザイン推 進委員会
登録締切 5. 10	第 9 回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ		(公社) 日本建築家協会北 海道支部
5. 18～20	日本マンション学会 2018 北海道大会	北海道大学工学部	日本マンション学会
6. 1～2	2018 年「建築とまちづくりセミナー i n 札 幌」	札幌市教育文化会 館 4 階講堂	新建築家技術者集団・セ ミナー実行委員会

II 2017年度収支決算報告

2017年度 貸借対照表

2018年 3月31日現在							
科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産				1 流動負債			
現金預金	2,594,697	2,422,457	172,240	未払金	0	0	0
未収金	0	0	0	前受金	12,000	12,000	0
前払金	168,684	168,684	0	預り金	20,269	21,539	△1,270
仮払金	27,672	28,364	△692	仮受金	582,309	584,629	△2,320
				賞与引当金	0	0	0
流動資産合計	2,791,053	2,619,505	171,548	流動負債合計	614,578	618,168	△3,590
2 固定資産				2 固定負債			
(1) 基本財産	0	0	0	退職給付引当金	1,020,000	960,000	60,000
基本財産合計	0	0	0	固定負債合計	1,020,000	960,000	60,000
(2) 特定資産				負債の部合計	1,634,578	1,578,168	56,410
学術振興基金引当資産	4,670,000	4,760,000	△90,000	III 正味財産の部			
災害調査研究基金引当資産	1,900,000	1,900,000	0	1 指定正味財産			
支部基金引当資産	2,610,000	2,610,000	0	指定正味財産合計	0	0	0
退職給付引当資産	1,020,000	960,000	60,000	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
特定資産合計	10,200,000	10,230,000	△30,000	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(3) その他の固定資産				2 一般正味財産	11,918,025	11,832,887	85,138
敷金	561,550	561,550	0	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
その他の固定資産合計	561,550	561,550	0	(うち特定資産への充当額)	(9,180,000)	(9,270,000)	(△90,000)
固定資産合計	10,761,550	10,791,550	△30,000	正味財産合計	11,918,025	11,832,887	85,138
資産の部合計	13,552,603	13,411,055	141,548	負債及び正味財産合計	13,552,603	13,411,055	141,548

2017年度 正味財産増減計算書

2017年 4月 1日から 2018年 3月31日まで

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部							
1. 他会計振替額							
交付金収入	(6,671,500)	(6,699,000)	(△27,500)				
支部費	1,711,000	1,694,000	17,000				
支部経営助成費	1,747,500	1,800,000	△52,500				
事業促進費	300,000	300,000	0				
支部研究補助費	200,000	200,000	0				
教育文化事業交付金	542,000	534,000	8,000				
大会交付金	0	0	0				
支部事務費	300,000	300,000	0				
支部事務所費	1,871,000	1,871,000	0				
他会計からの振替額計	6,671,500	6,699,000	△27,500				
2. 経常増減の部							
[1] 経常収益				[2] 経常費用			
(1) 実施事業会計	(406,512)	(885,000)	(△478,488)	(1) 実施事業会計	(1,429,902)	(2,210,294)	(△780,392)
表彰・顕彰事業	(406,512)	(885,000)	(△478,488)	調査研究事業	(486,442)	(558,948)	(△72,506)
表彰関係	406,512	885,000	△478,488	調査研究事業	486,442	558,948	△72,506
(2) その他会計	(2,846,197)	(2,137,824)	(708,373)	表彰・顕彰事業	(612,438)	(1,317,818)	(△705,380)
研究集会事業	(2,346,197)	(2,137,824)	(208,373)	表彰関係	608,442	1,314,816	△706,374
支部研究発表会	1,087,197	1,074,668	12,529	設計競技	3,996	3,002	994
建築作品発表会	1,259,000	1,052,756	206,244	社会対応事業	(331,022)	(333,528)	(△2,506)
過年度研究集会事業	0	10,400	△10,400	文化事業	310,103	307,256	2,847
委託事業	(500,000)	(0)	(500,000)	展示会事業	20,919	26,272	△5,353
調査研究委託事業	500,000	0	500,000	(2) その他会計	(2,521,144)	(2,157,076)	(364,068)
(3) 法人会計	(183,790)	(115,206)	(68,584)	研究集会事業	(2,096,144)	(2,157,076)	(△60,932)
特定資産運用益	(1,752)	(3,167)	(△1,415)	支部研究発表会	778,418	892,892	△114,474
特定資産受取利息	1,752	3,167	△1,415	建築作品発表会	1,317,726	1,264,184	53,542
雑収益	(182,038)	(112,039)	(69,999)	委託事業	(425,000)	(0)	(425,000)
受取利息	38	39	△1	調査研究委託事業	425,000	0	425,000
雑収益	182,000	112,000	70,000	(3) 法人会計	(6,071,815)	(6,196,830)	(△125,015)
				支部運営	(257,344)	(285,904)	(△28,560)
				支部総会	232,072	250,308	△18,236
				支部役員会	25,272	13,716	11,556
				選挙管理委員会	0	0	0
				その他運営費	0	21,880	△21,880
				支部事務運営	(5,814,471)	(5,910,926)	(△96,455)
				給与手当	2,129,014	2,130,700	△1,686
				退職給付費用	60,000	60,000	0
				法定福利厚生費	369,250	357,043	12,207
				福利厚生費	23,295	29,815	△6,520
				通勤手当	176,040	176,040	0
				旅費交通費	20,300	7,410	12,890
				通信回線費	113,728	121,022	△7,294
				發送運搬費	38,335	24,069	14,266
				消耗品費	40,433	118,175	△77,742
				印刷費	45,439	61,946	△16,507
				支払手数料	26,784	31,752	△4,968
				賃賃料	142,560	144,720	△2,160
				地代家賃	2,024,208	2,024,208	0
				水道光熱費	536,177	547,013	△10,836
				雑費その他	68,908	77,013	△8,105
				経常費用計	10,022,861	10,564,200	△541,339
経常収益計	3,436,499	3,138,030	298,469				
当期経常増減額	△6,586,362	△7,426,170	839,808				
当期一般正味財産増減額	85,138	△727,170	812,308				
一般正味財産期首残高	11,832,887	12,560,057	△727,170				
一般正味財産期末残高	11,918,025	11,832,887	85,138				
II. 指定正味財産増減の部							
指定正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)				
III. 正味財産期末残高	11,918,025	11,832,887	85,138				

2017年度 正味財産増減計算書（決算-予算対比）

2017年4月1日 ～ 2018年3月31日

一般社団法人 日本建築学会 北海道支部

科目	予算額	決算額	差異
I. 一般正味財産の部			
1. 他会計振替額			
交付金収入	(6,602,000)	(6,671,500)	(▲69,500)
支部費収入	1,597,000	1,711,000	▲114,000
経営助成費収入	1,800,000	1,747,500	52,500
事業促進費収入	300,000	300,000	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0
教育文化事業交付金収入	534,000	542,000	▲8,000
支部事務費収入	300,000	300,000	0
支部事務所費収入	1,871,000	1,871,000	0
他会計からの振替額計	6,602,000	6,671,500	▲69,500
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(406,512)	(▲231,512)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(406,512)	(▲231,512)
表彰関係	175,000	406,512	▲231,512
その他会計	(2,140,000)	(2,846,197)	(▲706,197)
研究集会事業	(2,140,000)	(2,346,197)	(▲206,197)
支部研究発表会	1,050,000	1,087,197	▲37,197
建築作品発表会	1,070,000	1,259,000	▲189,000
過年度研究集会事業	20,000	0	20,000
委託事業	(0)	(500,000)	(▲500,000)
委託調査研究事業	0	500,000	▲500,000
法人会計	(203,000)	(183,790)	(19,210)
特定資産運用益	2,000	1,752	248
特定資産受取利息	2,000	1,752	248
雑収益	(201,000)	(182,038)	(18,962)
受取利息	1,000	38	962
雑収益	200,000	182,000	18,000
経常収益計	2,518,000	3,436,499	▲918,499
実施事業会計	(1,920,000)	(1,429,902)	(490,098)
調査研究事業	(740,000)	(486,442)	(253,558)
調査研究事業	740,000	486,442	253,558
表彰・顕彰事業	(760,000)	(612,438)	(147,562)
表彰関係	720,000	608,442	111,558
設計競技	40,000	3,996	36,004
社会対応事業	(420,000)	(331,022)	(88,978)
文化事業	390,000	310,103	79,897
展示会事業	30,000	20,919	9,081
その他会計	(1,935,000)	(2,521,144)	(▲586,144)
研究集会事業	(1,935,000)	(2,096,144)	(▲161,144)
支部研究発表会	855,000	778,418	76,582
建築作品発表会	1,080,000	1,317,726	▲237,726
委託事業	(0)	(425,000)	(▲425,000)

科 目	予算額	決算額	差異
委託調査研究事業	0	425,000	▲ 425,000
法人会計	(6,283,000)	(6,071,815)	(211,185)
支部運営	(310,000)	(257,344)	(52,656)
支部総会	250,000	232,072	17,928
支部役員会	40,000	25,272	14,728
選挙管理委員会	2,000	0	2,000
その他の運営費	18,000	0	18,000
支部運営(非課税)	(5,973,000)	(5,814,471)	(158,529)
給与手当	2,100,000	2,129,014	▲ 29,014
退職給付費用	60,000	60,000	0
法定福利費	366,000	369,250	▲ 3,250
福利厚生費	25,000	23,295	1,705
通勤手当	176,000	176,040	▲ 40
旅費交通費	20,000	20,300	▲ 300
通信回線費	125,000	113,728	11,272
発送運搬費	34,000	38,335	▲ 4,335
消耗品費	50,000	40,433	9,567
印刷費	120,000	45,439	74,561
支払手数料	30,000	26,784	3,216
賃借料	145,000	142,560	2,440
地代家賃	2,024,000	2,024,208	▲ 208
水道光熱費	648,000	536,177	111,823
雑費その他	50,000	68,908	▲ 18,908
経常費用計	10,138,000	10,022,861	115,139
当期経常増減額	▲ 1,018,000	85,138	▲ 1,103,138
当期一般正味財産増減額	▲ 1,018,000	85,138	▲ 1,103,138
一般正味財産期首残高	11,611,000	11,832,887	▲ 221,887
一般正味財産期末残高	10,593,000	11,918,025	▲ 1,325,025
指定正味財産期末残高			
正味財産期末残高	10,593,000	11,918,025	▲ 1,325,025

監査報告

2017 年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2018 年 4 月 25 日

支部監事 _____

支部監事 _____

Ⅲ 2018年度事業計画方針案

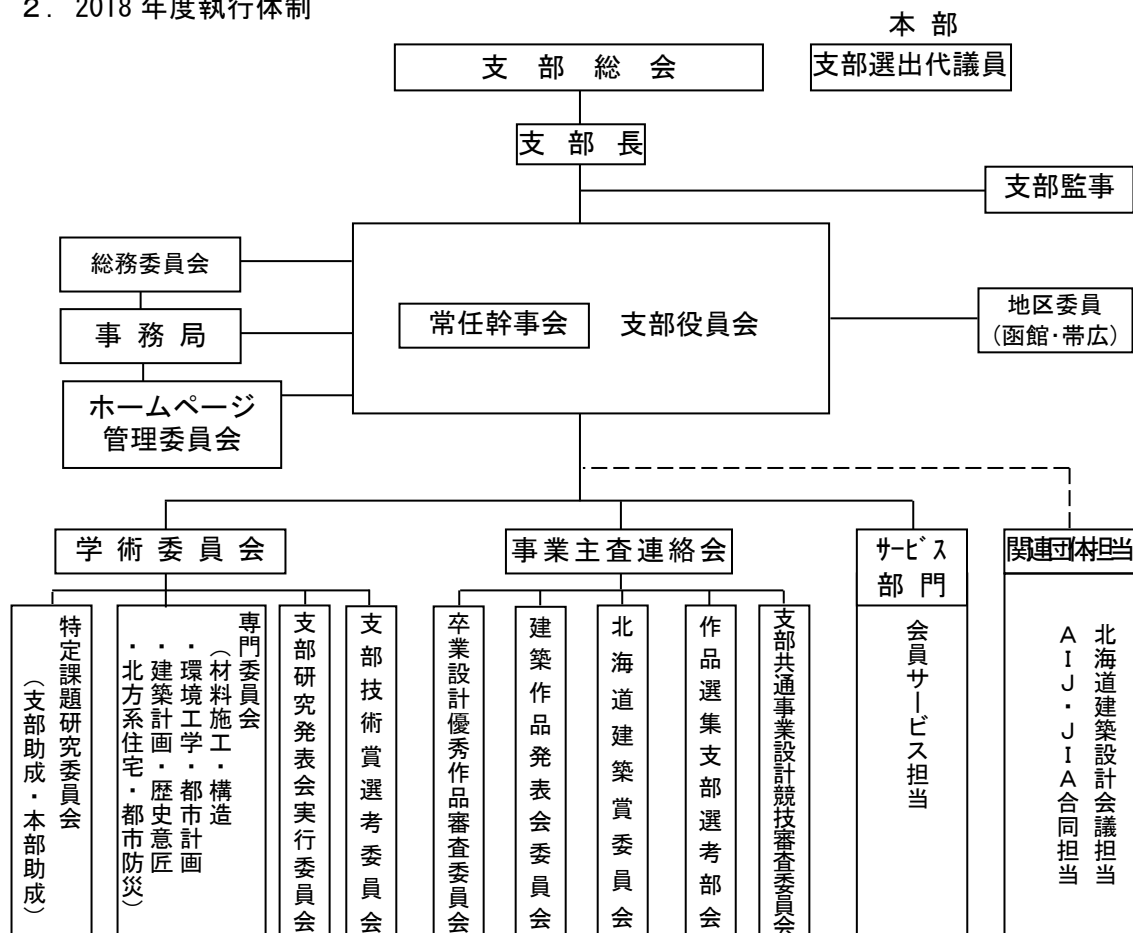
1. 活動方針

北海道は独特の気候、風土をもち、激変する社会環境の中で建築や都市の課題に対応するためには、地域性、場所性を認識し、学術、産業において、領域を超えた議論や交流がなされることが大切である。北海道支部が地域の拠点として、その役割を果たすことを活動方針とする。

支部活動の活性化を目標に、支部技術賞、支部研究発表会での若手発表者の顕彰また支部研での企業参加のパネル展などを、研究活動の活性とともに支部活動の活性化に役立ててゆく。日本建築学会「女性会員の会」は、北海道支部にあっては「建築女子café」の名称のもと、女性建築技術者が一般化する中で、2018年度も引き続き、建築分野の女性活用の先進性を生かしたネットワークのありかたなどをテーマに活動を進める。

建築学会における支部の存在の重要性は増しているが、慢性的な支部財源の逼迫による支部運営への影響が出ている。財政の強化に関して、今後も継続課題としてゆく。

2. 2018年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2018.6.1~2020.5.31)

千歩 修君 北海道大学教授

新任常議員(2018.6.1~2020.5.31)

※石塚 和彦君 石塚和彦アトリエ一級建築士事務所代表
海藤 裕司君 榊山下設計北海道支社支社長
中村 英隆君 大成建設(株)札幌支店建築部作業所長
※三浦 誠君 北海道職能能力開発大学校建築科准教授
山本 悦徳君 北海道札幌工業高等学校建築科教諭
横尾 淳一君 榊竹中工務店北海道支店設計部設計グループ課長
吉津 利洋君 北海道科学大学建築学科准教授
(※印 常任幹事)

新任常議員は、支部役員選挙開票(2018年4月9日)により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印 委員長)

☆前田憲太郎君, 河合 有人君, 久新信一郎君, 羽石 彰夫君, 渡邊 純一君,

留任常議員(2017.6.1~2019.5.31)

久新信一郎君 岩田地崎建設(株)第二営業部次長
鈴木 理君 榊鈴木理アトリエ一級建築士事務所代表取締役
※羽石 彰夫君 清水建設(株)北海道支店設計部部長
村田さやか君 (地独) 北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所
地域研究部地域システムグループ主査
米田 浩志君 北海学園大学教授
渡邊 純一君 北海道建設部住宅局建築指導課建築企画グループ主幹
(※印 常任幹事)

・西村康志郎君は、2018年3月31日付で道外転出のため退任。

新任代議員 (2018.4.1~2020.3.31)

大條 雅昭君 北海道建設部まちづくり局都市計画 新幹線基盤支援担当課長
田沼 吉伸君 北海道科学大学教授
(2018年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出)

留任代議員 (2017.4.1~2019.3.31)

菊地 優君 北海道大学教授
佐藤 孝君 北海道科学大学教授

新任支部監事 (2018.6.1~2020.5.31)

下村 憲一君 北海道科学大学客員教授
(2018年4月の支部役員会で選出)

留任支部監事 (2017.6.1~2019.5.31)

半澤 久君 北海道科学大学名誉教授

地区委員 (2018.6.1~2019.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也君 元函館市教育委員会教育長

3. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2018年5月18日(金)
会場 北海道建設会館

◆ 支部役員会 (複数回)

◆ 常任幹事会 (複数回)

◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4. 1 学術委員会 (主査：岡本 浩一君, 委員数：14名, 委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画および活動の報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認(技術パネル展の企画・運営)、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業の募集と選考、北海道支部技術賞の募集と支部技術賞選考委員会の設置による選考、道内工業高校巡回講演会への講師派遣を行なう。その他、事業主査連絡会との横断的な連携をはかる。

第1回：本部学術推進委員会の報告。支部研究発表会の報告。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間事業の募集。特定課題研究の募集。

第2回：支部研究発表会に関連する内容の審議。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間企画および特定課題研究の承認。支部技術賞の募集。

第3回：本部学術推進委員会の報告。次年度の支部研究発表会の企画、各専門委員会・研究委員会の活動報告。支部技術賞選考委員会の設置。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。各専門委員会・研究委員会の活動報告。特定課題研究の結果報告。支部技術賞選考委員会による支部技術賞の表彰候補の選考。

なお、特定課題研究委員会は次の通り。2019年度は新規に2件募集となる予定。

(継続：本部助成)「寒中コンクリート新技術の動向調査」主査：濱 幸雄 2017-18

(新規：支部助成)なし

4. 2 専門委員会

◆ 材料施工専門委員会 (主査：杉山 雅君, 委員数：23名, 委員会開催数：3回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施行現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 勉強会(話題提供)

見学会の開催

◆ 構造専門委員会 (主査：飯場 正紀君, 委員数：21名, 委員会開催予定数：2回)

各種行事を企画して道内における構造分野の研究者・技術者との情報交換を行い、構造に関する研究調査を推進する。また、構造分野において、若手会員の学会活動への参加を支援する。主な活動予定は次のとおりである。

1) 構成委員数は21名。

2) 委員会は2回(6月, 12月), 幹事会は2回(9月, 3月)の開催を予定し、必要に応じてメー

ル会議を開く。

- 3) 講演会・講習会は、2回(随時)開催する。
- 4) 見学会は、建築物(施工中も含む)等を対象に2回程度(随時)実施する。
- 5) 勉強会は、委員会開催時に構造に関わらず幅広い分野を対象に行う

◆ **環境工学専門委員会** (主査：桑原 浩平君, 委員数：15名, 委員会開催予定数：3回)

2018年度は以下の活動を予定している。

- 1) 学位を取得した若手研究者の研究発表の機会を設け、最新の研究動向を把握する。
- 2) 環境建築、最新の設備技術を駆使している建築の見学会を実施する。北方系住宅専門委員会と連携して共催による見学会を実施する。
- 3) 「第13回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs' 18 (会場：未定)」の開催を支援する。
- 4) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催 地区講演会ほか、本委員会の関係組織が主催する講演会、セミナー等を支援する。

◆ **建築計画専門委員会** (主査：真境名達哉君, 委員数：11名, 委員会開催予定数：2回)

構成委員数11名、委員会開催数2回程度、見学会なども2回程度行う。北海道の建築計画(学)分野にかかわる新しい課題の把握、加えて精力的に社会貢献活動の展開を目指す。本年度の活動計画として大きくは、庁舎建築に関連する計画課題を抽出し、建築計画的な課題解決の方策を考察する。またこれらの成果は、公開研究会として積極的に公に開いていきたい。

◆ **都市計画専門委員会** (主査：岡本 浩一君, 委員数：12名, 委員会開催予定数：5回)

人口減少・超高齢・少子社会の到来および公民問わず各種ストックの老朽化は、都市の健全さの維持に大きな懸念を生じさせている。建築には、都市や地域の一部であると認識した上で、その“在り方”を問い直すことが求められる。変化する社会のなかで、建築と都市・地域との関係を改めて考える機会を、学生や若手技術者も交えた形で設けていく。

平成28年度から継続中の連続企画「わたしの職能」について、残り2回を年度当初に実施する(4月、5月予定)。のちに同連続企画の振り返りと今後の展開を議論する(6月予定)。建築と都市・地域との関係を考える研究会・委員会または事例見学会を、参加者に制限を設けない公開形式で2～3回程度開催する。テーマにより類似他団体との連携・協力等も想定する。

◆ **歴史意匠専門委員会** (主査：西澤 岳夫君, 委員数：16名, 委員会開催予定数：3回)

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として委託研究を含め社会や住民に貢献する体制を整備する。具体的には、建築文化週間事業として、見学会「建築散歩～帯広の名建築を巡る」を10月14日に開催する予定である。

◆ **北方系住宅専門委員会** (主査：立松 宏一君, 委員数：11名, 委員会開催予定数：2回)

本委員会では次の活動を予定している。

新たな地域住宅像形成に向けた議論や、最新の住宅事情に関する意見交換、学会の事業への協力、参画の検討ため、年2回の委員会を開催する。また、新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会(第11回)を実施する(当委員会の委員も参画している「みどり野きた住まいるヴィレッジ」での実施を検討する)。

◆ **都市防災専門委員会** (主査：麻里 哲広君, 委員数：16名, 委員会開催予定数：2回)

■活動方針

委員相互の連携、防災関係機関との連携、他学協会との連携、地域との連携を強化するとともに、次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を進める。

■主な活動事業

- 1) 建築文化週間事業「地震防災体験学習」の実施(2018年10月を予定)。
- 2) 構造専門委員会等との共催による見学会、講習会の実施。

- 3) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。
- 4) 各種防災イベントへの協力

4. 3 特定課題研究委員会

なし

4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2017年度より)

◆ 寒中コンクリート新技術調査研究委員会（主査：濱 幸雄君，委員数：5名， 委員会開催予定数：複数回）

寒中コンクリート新技術の動向調査を以下の項目を中心にアンケート調査と現場計測等を交えた調査を行う。

- ・寒中コンクリート支援ソフトの利用状況
- ・養生計画・手法の調査
- ・寒冷度の指標を活用した氷点下養生計画の実施状況
- ・耐寒促進剤の利用状況

5. 支部研究発表会

5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：岡崎太一郎君，幹事：戸松 誠君，委員数17名， 委員会開催予定回数：6回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、下記を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程と会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 建築学会 HP 論文検索システムに対応するための電子投稿時記載事項の改善
- 4) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 5) 特別企画の実施および技術パネル展開催の支援
- 6) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 7) 支部研究報告集（冊子および CD-ROM）の作成および発行
- 8) 支部研究発表会の実施
- 9) 優秀講演奨励賞の選定・授与

支部研究発表会の実施

第91回北海道支部研究発表会

日時：2018年6月23日（土）一般研究発表会、会長講演、技術パネル展

場所：（地独）北海道立総合研究機構建築研究本部（北方建築総合研究所）（旭川市）

懇親会：講演会終了後に旭川市内にて開催予定

原稿提出締切：2018年4月12日（木）17:00（電子投稿受付）

発表登録システム HP：http://regist.hokkaido.seikyoku.jp/aij/entry/thesis_entry.php

支部研究報告集（冊子および CD-ROM）No.91 を発行

6. 表彰

6. 1 北海道建築賞（主査：山田 深君，委員数：7名，委員会開催予定数：複数回）

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一

層の促進を図る。

(2) 北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第43回北海道建築賞の応募期間：2018年4月16日(月)～5月15日(火)
- 2) 審査期間：5月上旬(応募状況確認および応募推薦作品の選定)～6月中旬(書類審査)～7・8月(現地審査)～9月上旬(最終選考)
- 3) 結果発表：9月下旬(常議員会での承認後)
- 4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会：10月26日(金) 予定

(3) 委員構成

今年度は、以下の委員により委員会運営を行う。

山田深(室蘭工業大学：主査)、赤坂真一郎(アカサカシンイチロウ・アトリエ)、小篠隆生(北海道大学)、海藤裕司(山下設計北海道支社)、佐藤孝(北海道科学大学)、福島明(北海道科学大学)

6. 2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)(主査：菅原 秀見君, 委員数：6名, 委員会開催予定数：1回)

(1) 賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

(2) 卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2018年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2017年度と同様、2018年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6. 3 卒業優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7. 1 北海道建築作品発表会委員会(主査：米田 浩志君, 委員数：3名, 実行委員数：11名 委員会開催数：5回(実行委員会4回を含む))

2018年度は、建築作品発表会が第38回を迎える。昨年に引き続き充実した発表の場にしたい。また、発表会の後半に企画しているフォーラムを発展させながら、さらに活発な議論が生じるような場を検討して行きたい。建築作品発表会の過去三十数年は北海道建築の質の向上に積極的に

寄与してきた。その歴史的事実を再確認しながら、今後の発表会への橋渡しをすべく 38 年目の発表会用プログラムを検討していきたい。尚、例年通り建築作品発表会作品集を発行する予定である。

7. 2 第38回北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬
作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬
作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬
作品発表会開催場所：北海道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8. 1 事業主査連絡会（事業系 5 委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員， 予定開催数：複数回）

事業系 5 委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中で、適宜事業を把握し、役員会へ報告提案をおこなう。それぞれの事業は印刷物や HP で公表するとともに支部事業の活性化を検討する。

8. 2 総務委員会（委員長：白井 和貴君，担当常議員，委員会開催予定数：1 回）

委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2018 年度）
委員長：森 傑君 北海道大学
委員： 担当常議員

8. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎君，委員数：2 名，委員会開催予定数：複数回）

2018 年度は以下の活動を予定している。

- 1) 役員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
- 2) Facebook ページへのイベント周知，報告を行う。
- 3) 各委員会ページ等の運用方法について検討を行う（2017 年度に実施予定だったが実施できなかった）。
- 4) 会議資料等のアーカイブ手法の検討

8. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：谷口 円君，委員数：11 名 委員会開催予定数：複数回）

建築女子 café（交流イベント（学生-社会人））の企画立案を行う。

- ・支部女性会員の会委員に加え，本活動に興味のある若手社会人、学生を交える
- ・建築分野の女性活用の先進性を生かしたネットワークのありかたについて、若手、学生も交え意見交換を継続する

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業

高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9. 1 本部主催講習会

2018年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10. 1 2018年度支部共通事業設計競技の実施（主査：山田 良君，委員数：5名， 委員会開催予定数：1回）

2018年度設計競技審査委員会は、主査：山田良、委員：赤坂真一郎、久野浩志、小西彦仁、山之内裕一の5名で行う予定である。

2018年度の課題は「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」と決定され、7月中に支部審査を1回行う予定である。

2017年度の応募総数は11案で、前回は応募数から増加した。また支部入選案のうち1案は全国審査においても受賞した。今後の更なる応募数増加を期待したい。

10. 2 作品選集支部選考部会（主査：田川 正毅君，委員数：6名， 委員会開催予定数：2回及び現地審査）

2017年度の実応募総数は前年度から4点増え12作品であり、内訳は住宅1作品、教会1作品、交流・集会施設2作品、教育・研究施設3作品、事務所・店舗等4作品、競馬施設1作品であった。今後も、優れた作品の実応募と選出が作品選集の意義を向上させていく好循環が期待される。現地審査は最も重要な審査過程であるため可能な限り多数の審査委員を得て実施したい。

10. 3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 「くしろ防災屋台村」（都市防災専門委員会）
2. 「建築散歩～帯広の名建築を巡る」（歴史意匠専門委員会）
3. 第43回北海道建築賞表彰式・記念講演会（支部主催）

11. 建築関連団体との活動

11. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：9名，委員会開催予定数：1回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

11.2 北海道建築設計会議

10団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

IV 2018年度収支予算案

2018年度 予算書（正味財産増減計算ベース） 北海道支部

科 目	2018年度予算額	2017年度予算額	前年度比 (増 減)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 他会計からの振替額			
本部からの交付金	(6,771,000)	(6,602,000)	(169,000)
支部費	1,645,000	1,597,000	48,000
経営助成費	1,920,000	1,800,000	120,000
事業促進費	300,000	300,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	0
建築文化事業費	535,000	534,000	1,000
大会交付金	-	-	0
支部事務費	300,000	300,000	0
支部事務所費	1,871,000	1,871,000	0
他会計からの振替額計 (A)	6,771,000	6,602,000	169,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係事業	175,000	175,000	0
その他事業会計	(2,160,000)	(2,140,000)	(20,000)
研究会事業	(2,160,000)	(2,140,000)	(20,000)
支部研究発表会	1,070,000	1,050,000	20,000
建築作品発表会	1,070,000	1,070,000	0
過年度研究会	20,000	20,000	0
法人会計	(203,000)	(203,000)	(0)
特定資産運用益	(2,000)	(2,000)	(0)
特定資産運用益	2,000	2,000	0
雑収益	(201,000)	(201,000)	(0)
受取利息	1,000	1,000	0
雑収益その他	200,000	200,000	0
経常収益計 (B)	2,538,000	2,518,000	20,000
[経常費用]			
実施事業会計	(1,800,000)	(1,920,000)	(▲120,000)
調査研究事業	(650,000)	(740,000)	(▲90,000)
調査研究事業	650,000	740,000	▲90,000
表彰・顕彰事業	(760,000)	(760,000)	(0)
表彰関係事業	720,000	720,000	0
設計競技事業	40,000	40,000	0
社会対応事業	(390,000)	(420,000)	(▲30,000)
文化事業費	360,000	390,000	▲30,000
展示事業費	30,000	30,000	0
その他事業会計	(2,035,000)	(1,935,000)	(100,000)
研究会事業	(2,035,000)	(1,935,000)	(100,000)
支部研究発表会	885,000	855,000	30,000
建築作品発表会	1,150,000	1,080,000	70,000
法人会計	(6,333,000)	(6,283,000)	(50,000)
支部運営	(310,000)	(310,000)	(0)
総会	250,000	250,000	0
常議員会	40,000	40,000	0
その他運営費	20,000	20,000	0
事務運営	(6,023,000)	(5,973,000)	(50,000)
給与手当	2,130,000	2,100,000	30,000
退職給付引当金繰入	60,000	60,000	0
法定福利厚生費	360,000	366,000	▲6,000
福利厚生費	30,000	25,000	5,000
通勤手当	176,000	176,000	0
旅費・交通費	15,000	20,000	▲5,000

科 目	2018年度予算額	2017年度予算額	前年度比 (増 減)
通信・回線費	125,000	125,000	0
発送・運搬費	30,000	34,000	▲4,000
消耗品費	120,000	50,000	70,000
印刷費	65,000	120,000	▲55,000
会議費	15,000	-	15,000
地代・家賃	2,024,000	2,024,000	0
水道光熱費	648,000	648,000	0
支払手数料	30,000	30,000	0
賃借料	145,000	145,000	0
雑費その他	50,000	50,000	0
経常費用計 (C)	10,168,000	10,138,000	30,000
当期経常増減額 (A) + (B) - (C)	▲859,000	▲1,018,000	159,000
当期一般正味財産増減額	▲859,000	▲1,018,000	159,000
一般正味財産期首残高	11,225,000	11,611,000	▲386,000
一般正味財産期末残高	10,366,000	10,593,000	▲227,000
指定正味財産期末残高	-	-	-
正味財産期末残高	10,366,000	10,593,000	▲227,000

<注記>

2018年度の「一般正味財産期首残高」は、2017年10月末時点における2017年度決算見込数値による

支部特定資産積立と取崩の実績と予定

(2017年度実績 2018年度予定)

	2017年度 特定資産積立・取崩 実績				2018年度 特定資産積立・取崩 予定		
	2017年度 期首残高	2017年度 積立	2017年度 取崩	2017年度 期末残高	2018年度積立	2018年度取崩	2018年度末残高
学術振興基金引当資産	4,760,000円	0円	△90,000円	4,670,000円	0円	0円	4,670,000円
支部基金引当資産	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円
災害調査研究基金引当資産	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円
退職給付引当資産	960,000円	60,000円	0円	1,020,000円	60,000円	0円	1,080,000円
合計	10,230,000円	60,000円	△90,000円	10,200,000円	60,000円	0円	10,260,000円

【2017年度 積立・取崩(実績)】

学術振興基金引当資産 特定課題研究委員会に90,000円を取崩。

退職給付引当資産 2016年度職員退職給付引当金として60,000円を積立。

【2018年度 積立・取崩予定】

学術振興基金引当資産 特定課題研究委員会のための取り崩し予定なし。

退職給付引当資産 2017年度職員退職給付引当金として60,000円を積立予定。

◆法人正会員

会員社名・団体名

会員社名・団体名

伊藤組土建(株)
 岩倉建設(株)
 岩田地崎建設(株)
 (株)岡田設計
 亀田工業(株)
 鹿島建設(株)
 (株)ホーム企画センター 総務部
 (株)熊谷組
 (株)北海道日建設計
 丸彦渡辺建設(株)
 大成建設(株)札幌支店
 宮坂建設工業(株)
 (株)竹中工務店北海道支店
 五洋建設(株) 札幌支店
 東急建設(株) 札幌支店
 (株)久米設計札幌支社
 (株)サンキットエーイー
 北海道旅客鉄道(株)
 (株)コバエンジニア
 (株)土屋ホーム

戸田建設(株)札幌支店
 (株)巴コーポレーション
 日鐵住金セメント(株)
 日本データサービス(株)
 (株)日本設計札幌支社
 日本防水総業
 (株)三菱地所設計
 (株)アトリエアク
 北農設計センター
 (株)中原建築設計事務所
 (株)北方住文化研究所
 (株)ドーコン
 北海道建築設計監理(株)
 北海道コンクリート工業(株)
 清水建設(株)北海道支店
 (株)田中組
 (株)三暁プレコンシステム
 (株)北海道不二サッシ
 (株)アトリエブク
 (一材)北海道建築指導センター
 (株)フィルド

◆賛助会員

会員社名・団体名

北海道電力(株)
 星槎道都大学附属図書情報館
 北海学園大学附属図書館
 (株)総合資格



一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://hokkaido.aij.or.jp/wp/>